

令和 7 年度行政評価 《事業評価調書》

事業名 橋りょう長寿命化事業				担当 建設部建設事業室建設課					
事業概要		老朽化が進んでいる市管理橋梁（136橋）について橋梁の保全等を計画的、持続的に進めるため、橋梁長寿命化修繕計画に基づき適切な修繕を行うことで、橋梁の長寿命化と維持管理コストの縮減を図り、将来にわたり安全・安心な道路網を確保するものである。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		46,765	千円	3.0	人	17,217	千円	63,982	千円
R7予算		176,418	千円	3.0	人	17,217	千円	193,635	千円
目標		修繕計画に基づき適切な修繕を行うことで、橋梁の長寿命化と維持管理コストの縮減を図り、将来にわたり安全・安心な道路網を確保する。							
実績・効果		令和 6 年度までに、1 2 橋を修繕完了。第 3 者被害の防止や安全で安心な交通の確保が図られている。							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				地震等の自然災害に備え、緊急輸送道路などの、交通網の確保は必要不可欠であり、その対策として、橋梁の耐震化や老朽化対策を実施している。			
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				老朽化した橋梁は、今後、急速に増加することから、修繕計画に基づき維持管理コストの縮減を図りつつ、安全・安心な道路網を確保する必要がある。			
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				長寿命化修繕計画に基づき、予防保全を主とする維持管理を実施することにより、60年間で約158億円のコスト縮減を見込む。			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				国費（道路メンテナンス事業補助）を活用し、事業を行っている。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】 後年度も、小樽市橋梁長寿命化修繕計画（令和 6 年度更新）に基づき事業を実施していく。									

事業名 臨時市道整備事業			担当 建設部建設事業室建設課						
事業概要	道路パトロールや地域要望等により把握している道路改良等の対策が必要である路線について、施設整備の緊急度、路線の重要度、整備効果及び困難度を勘案し、優先度を付けて市道約 5 8 9 k mのうち、年間 2 k mを指標として整備を進めている。								
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)		
R6決算	302,200	千円	3.0	人	17,217	千円	319,417	千円	
R7予算	296,500	千円	3.0	人	17,217	千円	313,717	千円	
目標	市道の老朽化路線の更新、狹隘区間の解消、溢水対策、未整備区間の改良を進め、安全で快適な市民生活及び円滑な交通の確保を図る。								
	計画的に舗装・側溝等を修繕することにより、道路交通の安全性や信頼性を確保し、予防保全が図られている。								
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			老朽化した構造物や凍結融解に伴い発生した舗装の穴による車両物損事故など第三者被害を防止しているため。				
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			地域毎に総合的な判断で効率的に整備を実施している。				
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			計画的かつ効率的に事業を実施しているが、老朽化等で修繕が必要な路線数が多い。				
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			緊急自然災害防止対策事業債を活用し、交付税措置がある。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続				
【今後の方向性の説明】 今後も施設整備の緊急度、路線の重要度、整備効果及び困難度を勘案し、施設整備に努め、市民ニーズに応えられるよう取り組んでいく。									

令和 7 年度行政評価《事業評価調書》

事業名	銭函地区河川防災事業				担当	建設部建設事業室維持課			
事業概要	平坦地である銭函地区の浸水被害の防止を目的とし、閉塞している土砂等を取り除き河川の機能回復を図る防災事業である。								
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)		
R6決算	14,860	千円	0.1	人	574	千円	15,434	千円	
R7予算	15,000	千円	0.1	人	574	千円	15,574	千円	
目標	銭函地区を流れる普通河川の浚渫等を実施する。								
実績・効果	大雨等による災害の発生を未然に防止することで住民の生命・財産を守り、市民生活の安全・安心の確保につながっている。								
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・河道に溜まっている閉塞土砂によって氾濫や溢水が発生するのを回避するため				
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・計画的に浚渫をする必要がある				
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・浚渫することにより河川の氾濫を防いでいる				
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・緊急浚渫推進事業債の活用				
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続				
【今後の方向性の説明】									
平坦地である銭函地区の河口に近い緩勾配河川においては、毎年河道内に土砂が溜り閉塞する傾向にあるため継続的に浚渫を実施する必要がある。									

事業名 沈砂池しゅんせつ等工事費				担当 建設部建設事業室維持課					
事業概要		海域への泥水流出防止及び河川機能を維持するため適切な維持管理を行う。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		20,857	千円	0.1	人	574	千円	21,431	千円
R7予算		21,000	千円	0.1	人	574	千円	21,574	千円
目標		市内準用河川及び普通河川（沈砂池等）の浚渫等を実施する。							
実績・効果		大雨等による災害の発生を未然に防止することで住民の生命や財産を守り市民生活の安心・安全の確保につながる。また、運河に流入する河川の浚渫は小樽運河浄化対策も兼ねていることもあり観光資源としての価値の維持につながっている。							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・河道に溜まっている閉塞土砂によって氾濫や溢水が発生するのを回避するため			
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・計画的に浚渫をする必要がある			
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・浚渫することにより河川の氾濫を防いでいる			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・緊急浚渫推進事業債の活用			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】 河道に溜まっている閉塞土砂や近年増加しているゲリラ豪雨等によって氾濫や民有地への溢水が生じるとその被害は甚大なものとなるため、継続的に浚渫を実施する必要がある。									